

■九州朝日放送番組審議会議事概要（4月分）

第602回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成30年4月16日（月） 午後3時30分～4時50分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 6名</p> <p>（出席委員） 野田 幸之輔 副委員長 池田 勝 委員 安恒 万記 委員 井手 雅春 委員 守田 有理子 委員 鶴 利絵 委員</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 和氣 靖 取締役 笹栗 哲朗 取締役総合編成局長 森 君夫 報道局長 臼井 賢一郎 ラジオ局長 穴井 建一 総合編成局テレビ編成部 プロデューサー 古川 純大</p> <p>番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長 井上 千秋 番組審議会事務局員（視聴者・広報室） 松永 俊郎</p>
議題	<p>議題 テレビ番組「福岡恋愛白書13 キミの世界の向こう側」 放送日：2018年3月23日（金）深夜0時25分～1時25分</p> <p>報告事項 1. 平成30年4月・5月 ラジオ・テレビ番組編成状況 2. 平成30年3月 視聴者・聴取者応答状況 3. 次回 平成30年5月度（第603回）審議会日程 5月21日（月）午後3時30分～開催 <課題> テレビ番組「とっども健康らんど」 放送日時：①2018年3月31日（土）午前11時25分 第1000回「これからの外科医療」 ②2017年5月20日（土）午前11時25分 第956回「血糖値スバイク」</p> <p>4. その他</p>
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは、耳が不自由な律ちゃんと蒼太とのストーリーについて様々な意見が出ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出会いから結婚までの経緯がテンポよく描かれ、起承転結を楽しめるドラマだった。恋愛ドラマではあったが、コミュニケーションの大切さを伝えるヒューマンドラマだったと思う。 ○一目惚れした蒼太のまっすぐな想いと、一生懸命に手話を覚えながら成長する姿、さらにそれに引き込まれるかのように気持ちが変わっていく律ちゃんの様子が上手に表現されていたと思う。揺れ動く若者の感情がよく描写されていた。 ○特殊な状況だけが蒼太の恋愛に対する努力を生み出したのではなく、母国語を異にしたり、文化が違ったり、育った環境が違ったりというような誰しもが経験するであろう前向きな恋愛に対する努力が描かれていたと思う。その姿からは「キミの世界の向こう側」に行けないことはないのだよと若者にメッセージを送ったという点で、若者に対する温かい眼差しを感じられたとても良い番組だった。 ○スマホの普及により、互いが文字ベースで意思疎通を図ることはかつてより容易になったろうが、手話を覚えることが蒼太の負担になることを心配した律ちゃんに対し蒼太が口にした「（律ちゃんの）顔を見ながら話したい」という言葉からは、顔を合わせて「話す」ことの大切さ、手話の役割を再認識させられた。 ○律ちゃんとひたむきで誠実な青年の蒼太が出会い、互いに惹かれあう場所として図書館はとてもいい設定だと思った。地名のPRの要素がおおげさに感じる部分もあったが、ロケ地として出てきた「九州工業大学」や「資さんうどん」も馴染み深く親しみやすさを感じた。 ○今回は「字幕・解説放送版」で番組を見たが、字幕と解説がストーリーに現実感を与え、爽やかな2人の演技と相まって、空虚でない興味のあるドラマに仕上がっていた。テレビの公共性の高さを踏まえたと解説放送番組の制作は意義があることだと思う。 ○互いを想い合い5年間も付き合っているながら、互いの世界の違いを身に染みて感じていた律ちゃんが「結婚はできない」と考えるシーンでは、身体的ハンディキャップを抱えながら暮らしていくことの難しさなどについて改めて考えさせられた。 <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人の出会いから5年間の前半部分はすごく丁寧に描かれていたが、5年経ってプロポーズ～別れ～葛藤～結婚の過程が少し描き足りない印象を受けた。1時間で足りないのであれば、1時間半の番組にするなどして欲しかった。 ○蒼太が律ちゃんにプロポーズをした後に、配偶者とする場合に直面する日常生活や緊急時の問題を律ちゃんから指摘されて落ち込むというシーンがあったが、5年の交際期間にそうしたことは考えるはずであり、少し不自然な印象を受けた。 ○（蒼太から）プロポーズされた律ちゃんが結婚をためらい「違う世界だから」と言い切らせてしまうには、律ちゃんがすごく孤立した大学生生活の4年間を過ごしたからではないか、十分なサポートが得られない背景があったのではないかと考えた。律ちゃんの大学におけるサポートの実態や交友関係は全く描かれておらず、そうしたことが蒼太に全面的に飛び込めなかった一つの要素だったのではないかと気になった。 ○番組の冒頭、雨の神社で「けど、こんどはまだ知らなかった。彼女の笑顔の本当の意味を。」と導入があったが、番組を見終えた後に振り返ってその意味を考えると、このドラマから感じた内容に対して違和感を抱いた。「キミの世界の向こう側」という副題の意味を教えてください。 <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5年間の交際の間に、2人が結婚する場合に生じる困難を普通は考えるのではないかと指摘があったが、どうしても尺の関係で描き切れなかった部分があった。最初の（2人の）出会いのシーンでは十分な尺を使って表現できたが、あのペースで話を進めるととても放送時間内では収まり切れなかった。律ちゃんが結婚についてどれほど悩んでいるのかという内面的な部分ももっと描きたかった。 ○副題「キミの世界の向こう側」の意味には「2人の世界の向こう側」という意味が込められている。律ちゃんが律ちゃんの世界を超えたという意味もあるが、健常者として手話の世界を知らなかった蒼太がその世界を知ることができたという意味で、裏テーマとして蒼太の世界の向こう側でもあったと考えている。 ○地名のPRの要素がおおげさに感じる部分もあったとの指摘があったが、実は取ってそう見えるようにスタッフにお願している。広い画で撮影することにより「あそこだ！」と分かるように撮影をして欲しいとお願している。ストーリー上は必要ないかもしれないが、実はこうしたところが「福岡恋愛白書」では見る人の共感を得るために重要な部分だと考えている。 ○手話は東京の「手話あいらんど」という団体に指導いただき、撮影現場でも「おかしい」と思われる部分（手話）には随時修正を入れていただいた。律ちゃん役の奈緒さんをはじめ、出演者には手話をとてもよく勉強していただき、放送終了後には視聴者から「私も同様の経験がある」等の感想が寄せられている。 <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p>